

ネパール現地報告 11

メモ（主要のみ）

5月16日

アンナプルナ病院バサントパント院長を訪問。浄水器を5つ寄贈。病院内は亀裂が入り、外来、入院ともに屋外で診察。手術場も屋外にテント設営。5月12日の余震後、倒壊を恐れ退院患者が続出。

上記病院の運営するNGOも被災者のための物資支援、簡易シェルターの設営を行っている。簡易シェルターモデル見学。現在被災地に約300棟建設中、1棟約1万2千ルピー（日本円約14000～15000円）。シェルターのコスト、有効性等も考慮の上、上記NGO活動への支援も検討。

どさんこ大泉代表と今後の支援先について話し合う。確定先：HDCS、アートセラピー。

5月17日

午前7時半トリプヴァン大学キルティプル校にて、自衛隊宮崎医師による「被災地における心のケアへの心構え」についての講義を聴講させて頂く（大泉代表、山本看護師、檜戸コーディネーターも同行）。キルティプル校学生、担当カルキ教授、関西学院大学古川教授、自衛隊緊急援助隊の他医師3名含め約40名が参加。

宮崎医師の東北震災現場での経験をもとに、PFA（Psychological first aid）に沿った内容を楽しくかつわかりやすく講義され、学生も熱心に聞き入っていた。約2時間半。

学生達は今後12グループに分かれ、それぞれ被災地での心のケアに従事する予定。各グループに対し1個、合計12個の浄水器を寄贈。

午後、大泉代表が帰国の途へ。森医師夫妻カトマンズへ到着。HDCS保健担当カピル氏、チョウジャリ病院事務局長ディル氏と共に、森医師の今後の活動について話し合い、今月19日～21日ラムジュン病院、23日～チョウジャリ病院での活動が決定。

今後の檜戸の予定

今月26日一旦帰国。6月28日再度カトマンズ入り。